PRESS RELEASE

公益財団法人
海洋生物環境研究所
〒162-0801
東京都新宿区山吹町 347 藤和江戸川橋ビル 7 階

平成２９年３月２７日
公益財団法人海洋生物環境研究所

給餌試験による放射性セシウムの取込・排出のモデル化に成功（学会発表）

研究所（公益財団法人海洋生物環境研究所、香川謙二理事長）は、放射性セシウムを含む餌をマダイとニジマスに与え、120 日以上飼育して放射性セシウムの取込、排出を調べた。その結果、餌から魚体への放射性セシウムの濃縮、魚体からの排出を、魚体の成長を考慮して精度良く評価することに成功した。

放射性セシウム濃度を約 100Bq/kg に調整した餌を与えて魚体筋肉中の放射性セシウム濃度変化を追跡したところ、筋肉中濃度は徐々に増加したが、飼育試験後半になるに従い増加の程度は緩やかとなった。一方、試験途中で通常の餌に切り替えたところ、筋肉中濃度は減少に転じた。これらの結果を、成長を伴う魚体についてモデル化し、餌から魚体への濃縮係数（餌中の放射性セシウムの魚体への濃縮比）や放射性セシウムの生物学的半減期（何日で半分の濃度となるか）を定量的に示すことができた。放射性セシウムの餌から筋肉部分への濃縮係数（成長希釈あり）は、マダイで 0.42、ニジマスで 0.61、生物学的半減期は、マダイで 97.6 日、ニジマスで 289 日と推定された。

本研究の詳細については、平成 28 年 3 月 26～30 日、東京海洋大学で開催される日本水産学会において、渡邉幸彦研究参事が口頭発表する予定（3 月 29 日）である。

＜問い合わせ先＞
担当：事務局　研究企画調査グループ
磯山　直彦
Tel.　03-5225-1161
Fax.　03-5225-1160

以　上